



沢辺税理士事務所通信

令和 8 年 2 月 1 日号
NO. 144



選択と集中で、頑張れ、日本！



異例の短期決戦と呼ばれる選挙期間に入っています。現時点（令和 8 年 2 月 2 日）ではその結果はまだ出しておりませんし、政治的な思想・思惑はいろいろあると思いますが、17 の戦略分野に重点投資する「選択と集中」という考え方には、会社経営においても基本的かつ重要な戦略の方法だと言えます。

ただ中小企業だと「17 分野」は多すぎるので、**多くても 3~5 つ、もしくは 1 点集中に成長分野を絞り込み、そこに会社のリソースの少なくとも 7 割以上は割く**というバランスがいいのではないかでしょうか。

日本の戦略分野で私が最も気になっているのは「海洋」の分野で、特にレアアース泥の掘削です。レアアースとは簡単に言うと「特別な性質を持った 17 種類の金属の総称」で、これを少し混ぜるだけでハイテク製品の性能を劇的にアップさせる力があります。自動車、スマホなどに欠かせない「現代産業のビタミン」という呼び名もあります。逆にレアアースが手に入らなくなると、日本の産業は心肺停止状態に陥るとも言われます。

そのレアアースですが、現在中国が世界の生産量の大部分を占めており、日本も約 60~70%（一部の金属はほぼ 100%）を中国に依存していますが、ご存知の通り高市首相の「台湾有事は日本にとっての存立危機事態になり得る」という発言をきっかけに、中国がレアアースの輸出禁止措置をちらつかせてきました。

そんな中、2 月 1 日に**日本が南鳥島沖の水深約 6,000 メートルからレアアース泥を引き上げることに成功しました**。南鳥島沖には日本の需要の数百年分のレアアース資源が眠っていることが以前からわかつっていましたが、あまりに深すぎて技術的に引き上げは不可能だと言われていました。ものすごい水圧のかかる 6,000 メートルの深海の底にまでパイプを垂らし、波風や潮の流れを常に読む（数メートル波に流されただけでパイプが折れてしまう）必要があるからです。A I にその難しさを比喩してもらうと、「東京スカイツリー 10 本分の長さのある超長いストローを海に垂らし、揺れる船の上から海底にあるタピオ力を吸い込む」「地上 600 メートルのヘリコプターから、地面に置かれた針の穴に糸を通す」などの回答が出てきました。**こんな難しいことを世界で初めて成功させられるだけの技術力が、日本にはある**ということです。

もちろんまだまだ問題も多いようで、そんな深海から引き上げるのはコストがかかりすぎて中国との価格競争では太刀打ちできること、またレアアースを泥や岩石から溶かし出す際に使う強力な薬品が環境汚染につながること、などです。とはいってこれらの課題をもし克服できれば、**日本は常に資源を他国からの輸入に依存している状況から一転、資源大国になれる可能性を秘めている**わけです。

他にも日本独自の、世界に誇れる技術・強みはたくさんあります。そんな強みをもっともっと「選択と集中」で活かしていくといいですね。頑張れ、日本！